

昔むかし、あるところに、王さまがいました。お妃さまは、なくなりましたが、美しい娘がありました。やがて王さまは、新しいお妃をむかえました。このお妃にも、娘がひとりありました。新しいお妃は、王さまの娘がいやでたまらず、いつか追い出してやろうと思っていました。

あるとき、お妃は、王さまの娘に、びんをわたして、

「地のはての井戸へ行って、水をくんで来ておくれ」といいました。

娘は、びんを受けとって、でかけました。草原を歩いて行くと、一頭の馬が、くいつながれていました。馬は、いいました。

「もうし きれいな娘さん あたしを放してくださいな

七年一日(いちじつ) だれも放して くれません」

娘は、

「ええ、そうしてあげましょう」といって、なわを解いて、馬をくいから放してやりました。すると、馬は、娘を背中に乗せて、とげや茨の生えている沼地を越えて行きました。

馬は、どんどん先へと進んでいって、とうとう地のはての井戸までやって来ました。井戸は、おそろしく深く、娘は、びんで水をくむことができませんでした。のぞきこんで、どうしたらよいものかと思案していると、井戸の底から、ウニが三匹、見上げていいました。

「もうし きれいな娘さん あたしをあらってくださいな

あなたの麻のエプロンで きれいにふいてくださいな」

娘は、

「ええ、そうしてあげましょう」といって、上がってきた三匹のウニをあらってやって、自分の麻のエプロンで、きれいにふいてやりました。すると、三匹のウニは、娘に、水をくんでくれました。それから、三匹のウニは、口々にいいました。

「おつげだ、おつげだ、おつげだよ。どんなおつげをしてやるの」

「あの子は前から美しいけど、これから十倍も美しくなるって、おつげをしてあげよう」と、いっぴきがいうと、二匹目がいいました。

「あの子がものをいうたびに、口から、ダイヤモンドがひとつ、ルビーがひとつ、真珠がひとつ飛びだすって、おつげをしてあげよう」

三匹目は、

「あの子がくしで髪をとかすたびに、金と銀がどっさりころがり落ちるって、おつげをしてあげよう」といいました。

娘は、王さまのお城に帰りました。前から美しかったけれど、今はもっと、十倍もきれいになっていて、何かいおうと口を開けるたびに、ダイヤモンドがひとつ、ルビーがひとつ、真珠がひとつ、飛びだしました。くしで髪をとかすと、金と銀がどっさりころがり落ちました。

お妃は、それを見て、すっかり腹を立て、どうしたらよいか分からなくらいでした。お妃は、自分の娘にも同じ幸せを手に入れさせよう思いました。そこで、自分の娘にいいました。

「地のはての井戸へ行って、水をくんで来ておくれ」

お妃の娘は、びんを持って出かけました。歩いていくと、馬がくいつながれている所まできました。馬が、いいました。

「もうし きれいな娘さん あたしを放してくださいな

七年一日（いちじつ） だれも放して くれません」

娘は、

「まあ、きたならしい馬。あたしが放してあげると思うの。あたしは王女なのよ」といいました。そこで、馬は娘を乗せてやらなかったの、娘は、とげや茨の生えている沼地を、やつとで越えて行きました。

娘は、どんどん先へと進んでいって、とうとう地のはての井戸までやって来ました。井戸は、おそろしく深く、娘は、びんで水をくむことができませんでした。のぞきこんで、どうしたらよいものかと思案していると、井戸の底から、ウニが三匹、見上げていいました。

「もうし きれいな娘さん あたしをあらってくださいいな

あなたの麻のエプロンで きれいにふいてくださいいな

娘は、

「まあ、きたならしいウニ。あたしが洗ってやると思うの。わたしは王女なのよ」といいました。娘がウニを洗ってやらなかったの、ウニも娘に水をくんでやりませんでした。三匹のウニは、口々にいいました。

「おつげだ、おつげだ、おつげだよ。どんなおつげをしてやるの」

「あの子は前からみにくいけど、これから十倍もみにくくなるって、おつげをしてやろう」と、いっぴきがいうと、二匹目がいいました。

「あの子がものをいうたびに、口から、かえるがいつぴき、がまがいつぴき飛びだすって、おつげをしてやろう」

三匹目は、

「あの子がくしで髪をとかすたびに、しらみやはえがどつきり出てくるって、おつげをしてやろう」といいました。

娘は、王さまのお城に帰りました。前からみにくかったけれど、今はもっと、十倍もみにくくなっていて、何かいおうと口を開けるたびに、かえるがいつぴき、がまがいつぴき、飛びだしました。くしで髪をとかすと、しらみやはえがどつきりぞろぞろ出てきました。とうとう娘は、お城から追い出されてしまいました。

王さまの娘は、やがて王子さまと結婚して、幸せに暮らしたとき。

おしまい

原話：『世界の民話6 イギリス』川端豊彦訳／ぎょうせい  
再話：村上郁